

作成日	平成〇〇年〇月〇〇日
評価日	平成〇〇年〇月〇〇日

【多文化版】個別の教育支援計画 〔 学校 〕

氏名	指導要録に記載する正式名	性別	男	国籍	中国
フリガナ	保護者に確認して記入	生年月日	〇〇〇〇年 〇月 〇日		
学校での表記	保護者・本人に確認して記入	母語 使用言語	中国語 英語		
住所	青森市〇〇 △番地1	連絡先	電話番号		
	続柄	氏名	国籍	本人との言語	日本語使用状況・備考
家族構成	父	〇 〇〇	中国	中国	挨拶程度
	母	〇 〇〇	中国	中国・日本	簡単な日常会話は可能
保護者への通知	<input type="checkbox"/> 日本語の通知文書で対応可能 <input type="checkbox"/> やさしい日本語で作成した通知が必要 <input checked="" type="checkbox"/> フリガナつきの通知文書が必要 <input checked="" type="checkbox"/> 大切な連絡等は翻訳文書が必要				
保護者面談 説明会等	<input type="checkbox"/> 日本語で可能 <input type="checkbox"/> やさしい日本語で対応するなど配慮が必要 <input checked="" type="checkbox"/> 通訳が必要				
来日時期	〇〇年〇月	滞日予定	日本在住予定		
将来の進路希望	日本の大学に進学希望。	在留資格	家族滞在		

年齢	学年	居住国・市町村	就学前の状況、在籍学校、不就学などの状況	担任	支援員	支援時間	備考
0-1		中国・〇〇					
1-2		〃					
2-3		〃	〇〇幼稚園				
3-4		〃	〃				
4-5		中国・〇〇	〇〇幼稚園				
5-6	小1	〃	〇〇小学校				
6-7	小2	〃	〃				
7-8	小3	〃	〃				
8-9	小4	〃	〃				
9-10	小5	〃	〃				
10-11	小6	〃	〃				
11-12	中1	〃	〇〇初級中学校				
12-13	小6	日本・青森県 〇〇市	6月、〇〇市立〇〇小学校編入	〇〇	△△	200	高校進学を考え 1学年下げて編入
13-14	中1	〃	〇〇市立〇〇中学校入学	□□	〇〇	100	学区の中学校に進学
14-15	中2	〃	〃	□□	〇〇		
15-16							
16-17							

生活の様子	得意なこと	走るのが早い。					
	好きなこと	アニメを見るのが好き。					
本人・保護者の 願い	本人	日本の学校に慣れて、友達をたくさん作りたい。 将来は、お医者さんになりたい。					
	保護者	日本で、大学教育まで受けさせたいと考えている。					
長期目標 (期間：4年)	日本語で行われる授業内容を理解できるようになり、公立高校に進学する。 母語や母文化を大切にしながら、日本人の友人を多く作り、校内での国際交流で積極的な発信ができるようにする。						
言語・文化的 配慮	学校生活上の配慮（1）						
	1-1 日本語が十分でないことを周囲が理解して、健康や安全を守れるようにする。特に災害時など。 2-1 学級活動や行事を通して、文化の違いを互いに尊重しながら友人関係を持つことができる。 2-2 お祈りの場所を確保する。						
	日本語及び教科学習上の配慮（2）						
支援体制 関係機関 との連携	1-2 2年程度は、日本語支援員がついて、日本語の基礎・基本を身に着ける。 2-4 高校進学に向けて、所属学級での教科学習においても、各教科担当が、重要なところを強調してゆっくり話す、やさしい日本語での説明を説明する、翻訳ツールを活用するなどして、内容理解ができるよう配慮する。						
	母語・母文化尊重に向けた配慮（3）						
	2 社会科や総合的な学習の時間等、授業で世界の国や文化を取り上げるときや、行事の中などで、母文化について発信してもらう機会を積極的につくる。 3 高校進学に向けて、日本の教育制度等について、保護者も含めて情報を伝える。						
日本語プログラム フェーズ	フェーズ	2 (〇年 〇月)	3 (〇年 〇月)	(年 月)	(年 月)		
支援時間	支援時間	週 200時間	週 100時間	週 時間	週 時間		
D L A	D L A 実施レポート	実施日 (実施者)	語彙力 チェック	話す	読む	書く	聴く
		〇年 〇月 〇日 (〇〇)	73% (日本語)	3.2	-	-	4.0 (B7)
		〇年 〇月 〇日 (〇〇)	90%	4.5	3.8 (F)	3.6 (W8)	4.2 (B8)
	年月日 ()	%					
D L A	全体評価 (ステージ)	実施日 (実施者)	話す	読む	書く	聴く	JSJ評価 <全体>
		〇年 〇月 〇日 (〇〇)	4			4	
		〇年 〇月 〇日 (〇〇)	5	3	3	4	3
備考	第1回目DLA：「話す」認知タスク△、「読む」「書く」はSVの判断により未実施。						
作成者	担当教員：	多文化スーパーバイザー：					
		支援員：					

言語・文化的配慮の観点・項目と具体例

観点（1）学校生活上の配慮

- (1) - 1 日本語を母語としないことによる学校生活上の困難への配慮
 - (1) - 1 - 1 行動のめやすになる表示などのユニバーサルデザイン
 - 例) ピクトグラム等 特に災害時の対応 サバイバル日本語の修得支援
 - (1) - 1 - 2 児童生徒同士のコミュニケーションをとりやすくする配慮
 - 例) 翻訳機 電子辞書等
- (1) - 2 母文化が異なるための学校生活上の困難への配慮
 - (1) - 2 - 1 コミュニケーション上の配慮
 - 例) 身体接触 学校文化（清掃、持ち物、部活動、行事、行動規範等）
 - 例) ものの貸し借り、けんかなどをめぐる文化によるコミュニケーションの違い
 - (1) - 2 - 2 施設・設備面での配慮
 - 例) 給食 トイレ 宗教（お祈りの場所等）

観点（2）日本語及び教科学習上の配慮

- (2) - 1 学習内容の変更・調整
 - (2) - 1 - 1 教育課程の違いへの配慮
 - 例) 学んだことのない科目や学習内容への配慮
 - (2) - 1 - 2 母語・母文化の違いから生じる困難度が高い科目の取り出し指導
 - 例) 国語科、社会科、家庭科等を別室で指導
- (2) - 2 教材や方法上の配慮
 - (2) - 2 - 1 教材の工夫
 - 例) 実物・模型・絵・写真・図の活用 学習の流れがわかるワークシートの活用
 - (2) - 2 - 2 体験的な活動の導入
 - 例) 実験やフィールドワーク
 - (2) - 2 - 3 デジタルツールの活用
 - 例) 翻訳機、タブレットの活用
 - (2) - 2 - 4 やさしい日本語による説明
 - 例) その授業内の重要事項をやさしい日本語でゆっくり説明する

観点（3）母語・母文化の尊重と多文化共生の取組

- (3) - 1 本人の心理面を考慮した母語や母文化の尊重
 - 例) 日常的な尊重による、自尊心やアイデンティティ、保護者との関係への配慮
- (3) - 2 周囲との間での互いの文化の理解と多文化共生に向けた取組
 - 例) 社会科・家庭科・芸術科、総合的な学習の時間、行事等での相互理解の機会
- (3) - 3 国による教育制度等の違いに配慮した取組
 - 例) 日本の高校への進学に向けた母語での情報提供

支援体制 関係機関との連携

- 校内支援体制 ケース会議を設定し、定期的に個別の支援計画を見直し、協働して支援にあたる 等
(担任、学年主任・教務主任・養護教諭等の関係職員、管理職、支援員、スーパーバイザー等)
- 関係機関との連携 所管教育委員会 弘前大学多文化リソースルーム 地域のNPOや国際交流協会等との連携の
具体的なあり方

母語・母文化の尊重のために

【基本的な考え方】

日本の学校では当たり前とされていて、相手の母文化では当たり前でないことがたくさんあります。次の2つの姿勢を基本として対応していきましょう。

- ① 日本の学校教育の考え方や指導方針について、理由や背景も含めて丁寧に説明し、理解してもらう。
- ② 宗教など相手にとって大切な価値観を尊重し、受け入れる。

配慮を必要とする可能性のある言語・文化的な違いの例

トイレ

- ・ジェンダーフリー（みんなのトイレ等）

宗教上の習慣

- ・礼拝室
- ・ウドゥ（シャワーコーナー。お祈り前に身を清めなければならないため）
- ・モスクへ行く（金曜午後）

食事への配慮

- ・宗教上禁止または嫌悪されている食材
- ・ラマダン（断食期間）日没後は食べられる
- ・弁当
 - 昼食は帰宅して食べる、冷たい食事を食べない文化、
 - 「日本の弁当」のイメージと違うもの
- ・食器を持ち上げて食べない文化

宗教による禁止または嫌悪事項

- ・歌、踊り、楽器、自画像を描く、水泳など
- ・左手を使うことは避ける（ヒンドゥー教）
- ・頭をなでる

遅刻・欠席

- ・欠席するときに連絡をしない
- ・家事や下の子の面倒を見ることが優先されるため学校を休む/遅刻する

教具・教材

- ・教材・教具は購入する必要がある
- ・教育は無償の国もある
- ・制服（ある場合）、体操服、ジャージ、内履き、〇〇袋、〇〇セットなど

行事への参加

- ・児童生徒は参加することになっている（国によっては任意や修学旅行など宿泊を伴う活動がない/教育活動に入らない）
- ・保護者の参加の有無（PTA、運動会、授業参観など）

身だしなみ

- ・服装、化粧、香水、アクセサリ等（宗教的なものもある 例 ビアス（お守り））

部活動（特に体育系）

- ・中・韓では、部活動はほとんどない
- ・米では、スポーツ系の部活動は学校ではなくエリート（アスリート）養成

未就学の可能性がある教科

- ・国 全般、書写
- ・社 地域学習、日本の歴史
- ・理 植物の栽培、実験
- ・算 九九、計算方法の違い
- ・音 リコーダー、鍵盤ハーモニカ
- ・体 跳び箱、マット運動

ジェスチャーの違い

- ・OKサイン（親指と人差し指で○を作る）→国によっては「お金」の意味
- ・おいでおいでの手招き →国によっては「あっち行け」の意味

採点方法の違い

- ・赤ペンを使わない
- ・正答に○→正答に✓